

# あすへつなぐ

自立を助ける  
①

# 生きる力はぐくむ

里に来た。施設長の岩川久 け、地元の子とも遊んだ。しを受け入れてくれるし、  
子さん(六九)に悩みを打ち明け、「ここでは、みんながわた 自分が自分でいられる」。

陽子さんはそう語り、数日 後、自宅へ帰った。

久子さんは「つまりきは、 あって当たり前。陽子は能 力が高い子。必ず良くなる」 と信じる。

「この里は、蔵王の雄 大な自然の中にある。不登 校、非行、引きこもり、ニ ート、発達障害など、社会 的な自立につまずいた青 少年を支援する施設だ。里 の子たちは共同生活を送 り、農作業などを通して、 社会に適応するための生活 力、体力、精神力を身に付 ける。」

里は東京の中学校で非行 生徒を指導していた岩川松 鶴さん(七〇)と、不登校の生 徒が通う情緒障害児学級 を担当していた妻の久子 さんが一九八六年に開設 した。当時は、自殺など が社会問題化し始めたこ ろ。松鶴さんは「何人かだ も命を救いたと思った」 と語る。

教員仲間とスキーで訪れ



ミーティングでスタッフと意見交換する岩川松鶴さん(左)と久子 さん。数多くの「里の子」が2人に育てられた

## 思いやりの心持つ子に

ていた蔵王を活動の場を選 んだ。久子さんは「情緒障 害児学級の子どもたちは卒 業しても、人として生きる 力が足りず、数年でまた引 きこもるようになった。子 どもたちの生きる力を、厳 しさで優しさを持つ自然か ら得たいと思った」と振り 返る。

退職金をつき込んで蔵王 の山荘を買った。八三 年、子ども三人を連れて移 り住み、活動を始めた。

「不良を集めて商売する のか」。当初は、地元 のPTA関係者から激しく反 対された。徐々に地域の理 解も得て、これまで小学生 から四十代までの五百人上 を受け入れた。預かった 少女が自殺するなどつらい 出来事もあったが、七八 割が就学や就労など自立の 道歩んだ。

里の子は親と離れて暮ら し、自分を見つめ、立ち直 る。「親も子どもも金や学 歴がないと、生きていけな

いと思っている。でも、そ れは間違っている。一番大切な のは、他人を思いやる心。そ ういうことを教えている」と 久子さんは言う。子ども が変わるだけでは不十分 で、親にも子どもと真正面 から向き合うことを求め る。

里の活動を始めて、二十 五年余りがたつ。今も相談 に訪れる人は後を絶たな い。

「子どもたちが苦しみ抜 いたことが、将来、何かの 時の糧になると思いた い。同じように悩んでい る人を見たら声を掛けられ る人間に育てたい」と久子 さん。

生死のかけつぐちに立つ ている家族を救うための奮 闘が続く。(山形総局・跡部裕史)

ま寄せ 集書 委編 集編 社編 社編 員電 022(211)1261、ファクス (211)1256。メール [henshui@o.kahoku.co.jp](mailto:henshui@o.kahoku.co.jp)

提供をめぐっては、山 〇 クロードのオアシス都市 同プロジェクトは、四 洋行幹部らが〇六年十 として栄えた中国西部 世紀から千年間にわたり 月、米メーカーとの販売 教皇(甘肅省)の石窟(せ 造営された敦煌仏教遺跡 常嘉煌氏によると、盗 されたのは李氏にとって 遺作となった壁画「薬師 知

者

「もう、嫌だ。家にいた くない」  
六月二十日、上市市のN PO法人「東北青少年自立 援助センター・蔵王(こい の里)」に、一人の少女が号 泣しながら電話をかけてき た。少女はこの春まで「里 の子」だった首都圏の高校 一年の陽子さん(仮名)。  
陽子さんはブログで「殺 す」などと中傷され、不登 校になった。家庭内では両 親とけんかが絶えず、暴力 ざたにもなった。里を訪れ たのは二年ほど前。そこで 立ち直り、今年三月、自宅 に戻ったが、再びブログで 悪口を書かれて学校に通え なくなり、親との衝突も激 しくなった。  
電話の翌日、陽子さんは